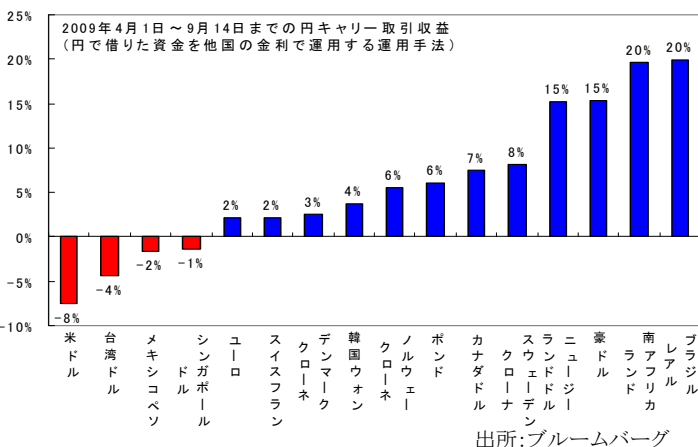


円キャリー（円借取引）の復活と高金利通貨選好

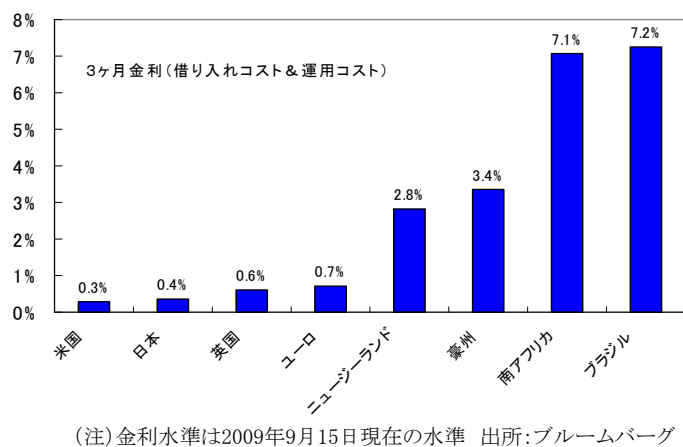
- ✓ 4-6月期以降の世界景気の回復傾向の中で円キャリー取り引きのパフォーマンスが+10%を越えた通貨は、日本との金利差がより大きく、かつGDP成長率予想が高い特色がある。
- ✓ 市場の注目は再度、金利差や経済成長率などのファンダメンタルズに回帰しはじめた模様。

世界的に景気回復が鮮明化した4-6月期以降の対主要通貨での円キャリー取り引きの収益を見ると、ブラジルレアル、南アフリカランド、ニュージーランドドル、豪ドルが+10%を越える高いパフォーマンスを示しています（図表①参照）。円キャリー取り引きとは、金利の低い円でお金を借り、より高い金利の外国で運用する日本と海外の金利差に着目した投資手法です。図表①の上位に位置している国の通貨群は高い金利水準にあることがわかります（図表②参照）。足元、市場の注目が再度、金利差に向かい始めた証左といえるでしょう。ちなみに、日本の金利は低利なので借入れに適した環境となっています。言い換えるならば円は調達通貨に適しており、運用通貨としての魅力は相対的に少ないといえます。

【図表①】



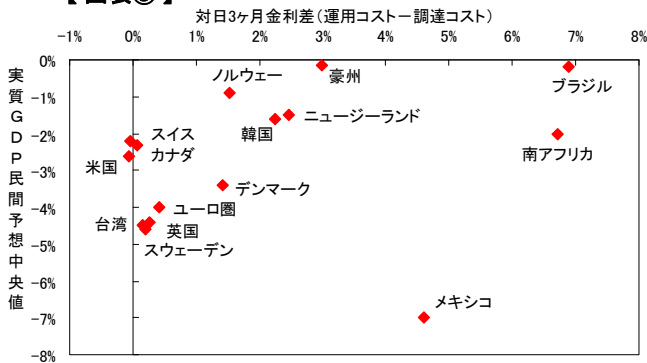
【図表②】



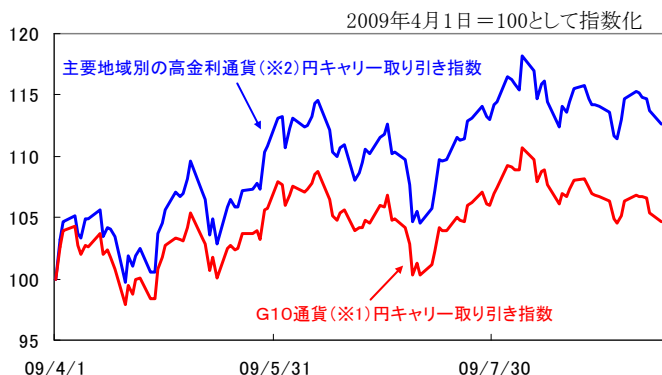
図表③は、縦軸に実質GDP成長率の民間予想の平均(2009年対前年比)、横軸に日本との3ヶ月金利差を表示しました。金利差や先行きの経済動向など、ファンダメンタルズに市場の注目が集まり始めた現在の環境では、図中のより右上方向に位置する通貨が選好されやすくなります。その証拠に、ブラジルレアル、南アフリカランド、豪ドル、ニュージーランドドルの各通貨は図表①で高いパフォーマンスを示現しています。

G10通貨(※1)のうち主要先進国群の対日3ヶ月金利差は図表③で見ると、およそ0%近傍に集中しており、低利で調達した円資金の運用先としては差別化ができません。一方、ブラジルや南アフリカなどの高金利国は運用先として差別化が可能です。そこで、高金利通貨(※2)を地域別に均等配分し円キャリー取り引き運用をする指数を組成し、同G10指数と比較すると、前者のパフォーマンスが後者を上回りました(図表④参照)。このことから、足元の環境が、より高金利の通貨群に資金が集まりやすい、まさに円キャリー取り引きに適した環境になってきたことがわかります。

【図表③】



【図表④】



- (※1) 豪ドル、ニュージーランドドル、スウェーデンクローナ、カナダドル、ポンド、ノルウェークローネ、デンマーククローネ、スイスフラン、ユーロ、米ドル
- (※2) ニュージーランドドル、豪ドル、ブラジルレアル、ノルウェークローネ、南アフリカランド、カナダドル

ご留意いただきたい事項

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託は値動きのある資産を投資対象としており、基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割込むおそれがあります。ファンドによって投資対象資産や投資規制、投資対象国などが異なるため、リスクの内容や性質が異なります。また、投資信託のお申込時、保有期間中、およびご換金時には費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料に記載されている各指数、統計資料等の著作権・知的財産権その他一切の権利は、各算出先、公表元に帰属します。
- 当資料に記載されている内容は発行日現在のものであり、今後予告なく変更される場合があります。投資に関する最終決定はお客様ご自身でご判断ください。
- 当資料のグラフ・数値等は過去の実績であり、将来の市場環境の変動や投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号
加入協会:(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

